

第33回東京女子医科大学・神経懇話会

日 時：2008年11月18日（火）18:00~20:00

場 所：東京女子医科大学 第二臨床講堂

一般演題 18:15~19:00

座長（解剖学）本多祥子

1. 前海馬台領域の神経線維連絡

（¹東京女子医科大学医学部解剖学,²京都大学大学院医学研究科高次脳形態学, ³東京都神経科学総合研究所脳構造部門,⁴東京農工大学大学院共生科学技術研究院動物生命科学部門獣医解剖学研究室)本多祥子¹・古田貴寛²・金子武嗣²・石塚典生³・柴田秀史⁴・佐々木宏¹

2. M蛋白血症を伴う末梢神経障害の臨床病理学的検討

（東京女子医科大学神経内科）小林正樹・堀場 恵・鈴木美紀・内山真一郎

3. 小児型 Pompe 病患者 1 例における酵素補充療法の治療経過

（¹東京女子医科大学小児科, ²東京女子医科大学心臓血圧研究所循環器小児科）石垣景子¹・村上てるみ¹・中西敏雄²・宍倉啓子¹・鈴木暘子¹・平山義人¹・大澤真木子¹

4. 条件づけ恐怖刺激によるラット扁桃体でのドーパミン放出に対するクロザピンの効果

（東京女子医科大学医学部精神医学）押淵英弘・稲田 健・石郷岡純

特別講演 19:00~20:00

座長（解剖学）佐々木宏

大脳皮質の局所神経回路：遺伝子工学の応用

（京都大学医学研究科高次脳形態学教授）金子武嗣

当番世話人：（東京女子医科大学医学部解剖学）佐々木宏

共 催：東京女子医科大学神経懇話会・エーザイ（株）

1. 前海馬台領域の神経線維連絡

（¹東京女子医科大学医学部解剖学, ²京都大学大学院医学研究科高次脳形態学, ³東京都神経科学総合研究所脳構造部門, ⁴東京農工大学大学院共生科学技術研究院動物生命科学部門獣医解剖学研究室）本多祥子¹・古田貴寛²・金子武嗣²・石塚典生³・柴田秀史⁴・佐々木宏¹

記憶形成回路の一部を構成する前海馬台領域の神経線維連絡について、従来の順行性・逆行性標識法に加え、GFP発現ウイルスベクターを用いた単一ニューロンレベルでの解析を行った。麻醉下に、ラット前海馬台の様々な位置にウイルスベクター濃縮液を注入し、生存期間において脳を灌流固定後、海馬長軸直交連続切片を作製した。抗GFP抗体を用いてGFP発現細胞の突起全体を可視化し、これを顕鏡下でトレースした。これまで前海馬台III層から内側嗅内野I~III層への強い投射が知られていたが、内側嗅内野II, III層へ投射する単一前海馬

台III層細胞の軸索分岐が同側前海馬台や傍海馬台深層などへ投射する様子が認められた。さらに、現在ウサギ前海馬台領域についてもコレラトキシンβサブユニット(CTb)注入法を用いて神経線維連絡の解析を行っており、所見の一部を報告する。

2. M蛋白血症を伴う末梢神経障害の臨床病理学的検討—神経生検の意義を考える—

（東京女子医科大学神経内科）小林正樹・堀場 恵・鈴木美紀・内山真一郎

〔目的〕M蛋白血症を伴う末梢神経障害を臨床病理学的に検討し、神経生検の意義を考えた。〔方法〕M蛋白血症16例(monoclonal gammopathy of undetermined significance 9例, Crow-Fukase症候群4例, その他3例: IgM 5例, IgG 6例, IgA 3例, IgG+IgA 2例)を対象として、臨床症状、末梢神経伝導検査、12例では腓腹神経の病理学的所見を検討した。〔結果〕血管炎の合併は7例(IgM 3例, IgG 2例, IgG+IgA 2例)で認め、うち6例で電気生理学的に軸索型障害を呈した。IgM型の3